

Y I A 会員だより 2023年2月号

発行；吉野川市国際交流協会・広報部(Tel22-2271,Fax22-2270)

第218号 ホームページ URL <https://yia2020.net/>



【2月以降の活動予定他】

国際理解授業（鴨島第一中学校）

日時：2月8日（水）13:30～ 講師：新居、萩森

多文化共生交流会（外国人との交流会です）

日時：2月19日（日）13:30～

場所：文化研修センター

1月22日3年ぶりに国際交流「もちつき大会」を開催。参加した2人の外国人から感想をもらいました。

◆初めての「もちつき」体験

チャン・ティ・トウエト・チン

新年におもちをつくのは、開運、健康、繁栄を祈る日本の風習です。1月22日の「もちつき大会」に、大人から子供まで約30～40名が参加しました。

みんなも私も、ご飯が炊き上がるのを熱心に待ちました。

それからエプロンをつけて、大人は大きな「きね」を持ち、私は子供用の小さな「きね」で「もちつき」をしました。おもちは、ねばねばした甘いお米から作られます。お米を一晩水に浸し蒸す。その後 エプロンを着た人が「うす」にご飯を移し、4人でリズムカルに連携しながら「もちつき」をします。もちをつくのは おもしろい。そして、手のひらで丸いケーキのように成形します。柔らかく魅力的なボールです。「もちつき」は少し疲れましたが、「もちつき」を体験できて楽しかった。私たちが参加できるように準備してくれた先生や人々に感謝します。そして、おみやげにおいしい「おもち」を家に持ち帰ることもできました。

◆中国の春節の日の「もちつき大会」

李 寧

今日は中国的春节，这是我在日本度过的第三个春节，也

是比较有意义的一次。早上老师带我们来到年糕的制作地点，当我们到达的时候已经开始了，先把米洗好，泡好，放入一个四角形的蒸笼里蒸熟，然后放入一个专门的石容器里，大家拿着大木锤你一下我一下，轮番上阵，喊着响亮的口号1.2.3.....等一粒粒白白胖胖的大米不在坚硬，趁热再揉成一个个圆圆的光滑的形状，年糕就这样制作完成了。通过参加这次活动让我感受到了传统文化不分国界，付出劳动就有收获。

最后祝福大家春节快乐，吃年糕，步步高。

今日は中国の春節です。私が春節を日本で過ごすのは3回目ですが、今年は意味のある春節になりました。朝、日本語教室の先生に餅つき大会に連れて行っていただきました。私たちが会場に着いた時には、すでに餅つきが始まっていました。餅つきは、まずお米を洗いきれぬ水に浸します。そして角型の蒸し器で蒸して、専用の石器に入れます。みんなで大きな木槌を持って、1・2・3...と大きな掛け声で叫びながら交互にお米をつきます。お米のツブツブがなくなったら、熱いうちに丸い形に丸めたら、餅のできあがりです。今回、参加して伝統文化に国境はないと感じました。実際に参加して経験になりました。

最後に、春節おめでとうございます、今年はずっと良い年になりますように！



◆地域に住む外国人の紹介

瀬尾 規子

地域に住む外国人を紹介したいと思います。2022年2月から鴨島で暮らし始めた CHHAN CHANNA(チャーチャンナー)さんを紹介します。チャンナーさんは、1997年生まれで、カンボジアのバタンバン出身です。現在、(株)松島組の職員として鴨島公民館で勤務しています。高校卒業後、日本の技能

実習生を目指して日本語を学んでいましたが、派遣会社の事情で日本に行けなくなりました。その後、別の日本語学校で日本語を学びながら、日本料理店でアルバイトをしました。

アルバイト先で、夫の荻野賢次郎さんと出会いました。カンボジアで婚約・入籍をして2019年7月に来日しました。最初、カンボジア人が多数勤める応神町の縫製会社で通訳として働いていました。夫の荻野さんが、吉野川市をホームタウンとするサッカーチームのFC徳島に所属したことから、鴨島町に住むようになりました。日本語検定2級に合格し、現在1級をめざして勉強中です。趣味は、料理、ドライブなどで、豚汁などの日本料理が得意だそうです。鴨島の印象は、スーパーなどがたくさんあり、暮らしやすく便利とのこと。日本語がとても上手なので、YIAで交流する機会を持ちたいと思います。



◆日本語教室卒業生二人の近況報告 萩森 健治

タイ出身のチャーさん：昨年12月に日本人男性とめでたく結婚、出産し、高松市内で親子ともに元気で新婚生活を送っています。チャーさんは、実習生として市内の縫製会社で働きながら日本語教室にはほぼ毎週来校し最多出席賞を何

回か受賞しました。徳島県日本語弁論大会にも出場しています。また、日曜日には我が家



チャーさんと生後1か月の乳児

によく遊びに来て、自宅前で「お父さん！」と大声で呼びながら入ってきました。昨年春ころから月に1回くらいしか出席なくなり、どうしたのかなと思っていると日本人の彼氏ができたとのこと。国際結婚の手続きをするため6月に大阪のタイ領事館まで車で送って行きました。また妊娠初期には地元の医療センターまで付き添いました。実習期間の満期が11月に迫り、出産予定の12月までに手続きが間に合うか心配していましたが結婚・出産の両方とも無事に合いました。

モンゴル出身のオトゴーさん：昨年12月に母国に帰国し、地元で薬剤師として調剤薬局で働いています。オトゴーさんは、モンゴル国家医科大学の薬学部を卒業後、3年前に来県し市内の介護施設で実習生として働きました。平日が休みの日はよく我が家に来ては「モンゴルに早く帰りたい」と言っていたのですが、仕事に慣れ職場の仲間にも恵まれて昨年12月に満期の3年を無事終了しました。あと2年間継続するか帰国するか本人は悩んでいましたが、12月に職場の仲間に見送られて帰国しました。彼女は日本語が堪能で、我が家では仕事、実習制度、母国の事情、家族、彼氏の話などをし、昼食後はパソコンで資料整理したり昼寝したりしてくつろいでました。オトゴーさんは大学生の時に母親が病死したそうです。私の長女は10歳の孫を残して42歳で病死しました。それでオトゴーさんに対しては娘が一人増えたような気持ちで接していました。たまに同僚の実習生や日本語講師と一緒に京都や奈良観光にも行きました。ほぼ毎週のように我が家に来ていたので、オトゴーさんが帰国して寂しくなりました。お正月にスマホで「地元で薬剤師として調剤薬局で働いています。父と二人で一緒に暮らしていて、元気です」と話してくれました。



モンゴル帰国後のオトゴーさん

多文化共生交流会に皆さん参加してください
2月19日(日)13:30～ 文化研修センター